[課程―２]

審査の結果の要旨

氏名　　園　環樹

本研究は、ACT（Assertive Community Treatment）の家族支援と本人アウトカムに焦点を当てた初めての体系的な評価研究である。日本における初めての ACT の実践である ACT-J で提供されたサービスを明らかにし、同居家族の有無によるサービス内容の違いを明らかにした上で、同居家族がいる利用者に対する家族支援の形態とアウトカムの関係を分析し、効果的な家族支援のあり方を検討することを本研究の目的とし、下記の結果を得た。

1. ACT-J では、精神症状・服薬管理の他に、社会生活支援、日常生活支援、家族支援などのサービスが多く提供されており、これらのサービスの内容や量は、各利用者のニーズに応じて大きく異なっていた。しかし、精神症状に関する支援と家族支援に関しては、全てのニーズ領域との間に有意な相関が見られ、利用者のニーズの内容によらず提供される、ACT の重要なサービス内容であることが示された。
2. 同居家族の有無によるサービス内容の比較結果により、非同居群で多く提供されていたサービスは、「日常生活支援（5.8 倍）」「経済生活支援（4.4 倍）」「住居支援（4.7 倍）」「連絡・調整（7.0 倍）」であった。ACT と家族が役割分担をしつつ本人を支えるという構造が示された。
3. 支援代行型と後方支援型の利用者アウトカムを比較した結果、精神障害者本人を支える家族を支えるよりも、家族に代わって本人を支える形の家族支援が、精神症状、社会生活機能、自己効力感、サービス満足度といった利用者アウトカムに関してより有効であることが示唆された。

以上、本論文は、ACT の家族支援と本人アウトカムに焦点を当てた初めての体系的な評価研究であり、ACT チームと家族が役割分担しながら利用者を支える構造が明らかになった。さらに、家族に代わって利用者本人を支える形の支援が、症状の軽減、社会機能の改善、自己効力感の向上、高いサービス満足度にとって有効であることが示唆された。本研究は、精神障害者の地域生活における効果的な家族支援を検討する上で重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。